

世界的な果実貿易の危機 - 輸出減少の原因を分析

EASTFRUIT 2023年4月18日

EastFruit*の分析グループによると、2022年には、長年にわたり毎年着実に成長してきた世界の果実とナッツ類の貿易量が初めて減少した。この異例の出来事の原因と、東欧・中央アジア諸国への及ぼす影響を調べた。(*: 東欧と中央アジアの野菜、果実、ベリー類、ナッツ類の市場に関する情報サイト)

世界の全輸出の約80%を占める世界の果実輸出国上位25か国の貿易を分析すると、2022年のこれらの国からの輸出は前年と比較して40億5千万ドル、すなわち3.5%減少した。以前は、世界の貿易は力強く成長し、2018年～2021年の平均年間成長率は6.3%、すなわち毎年66億ドルの増加を示していた。

興味深いことに、上位25か国のうち2022年に輸出の増加を示したのは6か国のみで、4分の1に満たなかった。このことは、この業界または消費における重大な問題について語っている。

どの国が輸出を増やし、どの国が減らしたかを詳しく見ると、果実貿易危機の原因に関する質問の答えはより明白になる。果実とナッツ類の輸出が増えたのは、チリ、ペルー、コスタリカ、エジプト、モロッコ、グアテマラで、これらの国々は(北半球の)オフシーズンに出荷できるという優位性を活かし、園芸ビジネスで安価な労働力が利用できるという重要な要素もある。一方、すべてのEU諸国は例外なく、また米国も、すなわち所得が最高水準で人件費が高い国々は、果実とナッツ類の輸出を大幅に減らしている。

2022年に果実とナッツ類の世界貿易が急落したのはなぜか?

国連食糧農業機関(FAO)投資センターのエコノミストであるアンドリイ・ヤルマーク氏は、「果実やナッツ類は、多くの場合必須の食品ではない。2022年に世界は、ロシアのウクライナに対する軍事進攻によって引き起こされた経済ショックとエネルギーショックを経験した。これにより、物流コストと生産者のエネルギーコストが急激に上昇し、基礎食料のコストが増加し、一方、ヨーロッパと米国では消費者の所得がほとんどまたはまったく増加しなかった。その結果、果実やナッツ類の需要は著しく弱まった。もう一つの理由は、気候変動や様々な異常気象によって引き起こされた問題であり、果実の出荷量の減少につながった」と述べた。

同氏は、「脱グローバルゼーション」の要素、すなわちモノの輸出入に対する様々な国の開放性の低下も大きな影響を及ぼしたと付け加えた。

さらに、貿易の減少は米ドルの値で推計されるが、2022年のドルベースのインフレ(ドルで表示した金額が膨らむ)は近年では記録破りの8%を超えており、これは世界の果実とナッツ類の輸出量は実際にはもっと急激に減少したことを示していることを考慮に入れる必要がある。

主要国の果実輸出はどのように変化したか?

米国は、約150億ドルの輸出額を誇る世界最大のナッツ類と果実の輸出国であり、輸出額の大部分をアーモンド、ピスタチオ、クルミ、生鮮リンゴ、生食用ブドウが占めている。クルミを除くこれらすべてについて、輸出額が顕著に減少した。

スペインは、柑橘類、ベリー類、核果類、カボチャ類、ナッツ類の5つの主要な輸出品目すべてで輸出量を大幅に減らした。ナツメヤシの実と生食用ブドウでは輸出額も減少した。

メキシコは輸出を減らしたものの、輸出国の世界ランキング第3位にとどまった。同時に、主要な輸出品目であるアボカドは力強い成長を続けた。しかし、2022年のメキシコからのベリー類の輸出はほぼ半分に減少した。ナッツ類の輸出も減少したが、柑橘類とメロン類の輸出は引き続き増加した。

オランダは世界最大の果実再輸出国であり、業界の状況の指標となる。オランダでは、熱帯果実、アボカド、ベリー類、柑橘類、リンゴ、ナッツ類及びブドウの輸出額は減少したが、バナナの再輸出額は増加した。

チリは、トップ5の中で輸出を増加させた唯一の国で、生食用ブドウの輸出額が増加し、サクランボを追い

越して同国で輸出額が最大の品目となった。総輸出額はほぼ3倍に急増した。なお、チリのサクランボの輸出額も2022年に大幅に増加し、これまでで最大の21億ドルに達した。キウイフルーツの輸出額は2倍以上になったが、チリ産ブルーベリーと生鮮リンゴの輸出額は減少した。

我々の地域(東欧・中央アジア)の国々からの果実輸出はどのように変化したか?

トルコはこの地域最大の果実とナッツ類の輸出国であるが、輸出国の世界ランキングでは8位であった。しかし、2022年のトルコからの輸出額は8%、すなわち4億2,400万ドル減少した。トルコからの輸出は、ほぼすべてのEU諸国とウクライナ向けで減少した。米国とロシアへの輸出は増加した。

トルコの輸出額は、主に主要な輸出品目であるヘーゼルナッツの輸出の縮小により減少した。リンゴ、イチジク、レモン、サクランボ、ブドウも輸出が少なくなった。生鮮マンダリン、アンズ、モモ、ピスタチオ、アーモンドの輸出額は増加した。

ポーランドの輸出額は主に冷凍ラズベリーの輸出によるものである。この品目は、冷凍果実全般と同様に、2022年に記録的な水準に成長した。一方、ポーランドからの冷凍イチゴの輸出は減少した。ポーランドのリンゴとブルーベリーの輸出額も減少した。

ウズベキスタンの2022年の果実とナッツ類の輸出額は21%、すなわち1億700万ドル増加した。この中で、生食用ブドウ、干しブドウ、モモ、カキの4つの主要な輸出品目の輸出額が力強い成長を見せた。一方、ウズベキスタンのサクランボの輸出額は、異常気象によってほぼ3分の1減少し、近年の最低記録となった。なお、ウズベキスタンのプルーン、生鮮スモモ、ザクロ、メロン、スイカ、冷凍果実の輸出額の伸びも注目される。

ウクライナは、2022年にロシア軍によって不法に侵略され、国内のさまざまな地域で果樹園が破壊されまたは損傷し、果実とナッツ類の輸出額は15%、すなわち5,500万ドル減少した。この減少は、冷凍ラズベリー、その他の冷凍果実、クルミの3つの主要品目で目立った。一方、ウクライナの生鮮リンゴ、ブルーベリー、冷凍イチゴの輸出額は増加した。

モルドバは近年、果実とナッツ類の輸出国の中でウクライナの下にランク付けされていたが、ロシアのウクライナ侵攻から生じる様々な困難にもかかわらず、2022年には輸出額を6%、すなわち1,500万ドル増加させた。主要な輸出品目であるリンゴとクルミの輸出額は、2021年と比較してほとんど変化していないが、生鮮ブドウ、サクランボ、アンズ、プルーン、冷凍ラズベリーに関しては、輸出額が著しく増加した。一方、モルドバの生鮮スモモの輸出額は急激に減少した。

ジョージアは輸出額を6%、すなわち1,300万ドル減らした。主に減少したのは、ジョージアの主要な輸出品目であるヘーゼルナッツであった。ジョージアのマンダリン、リンゴ、カキの輸出額も減少した。一方、ブルーベリー、モモ、ザクロ、スモモ、ドライフルーツ、レモン、アーモンド、さらには生食用ブドウなどの輸出品目では、輸出量を増やすことができた。

残念ながら、現時点ではタジキスタンからの果実・ナッツ類の輸出に関する新しいデータはない。

世界的な果実・ナッツ類の貿易危機はこの地域の国々にどのように影響し、危機はどのくらい続くのか?

需要の減少は、どの市場にも起こりうる最悪の事態である。果実やナッツ類も例外ではない。需要が減少すると、通常、価格は下がる。生産コストが引き続き過去最高に近い水準にあるという事実を考えると、これは生産者から加工業者、卸売業者、小売業者まで、果実・野菜セクターのすべての事業者の経済に悪影響を及ぼす。

これが現在世界の青果物市場で起こっていることである。

(以下省略)